

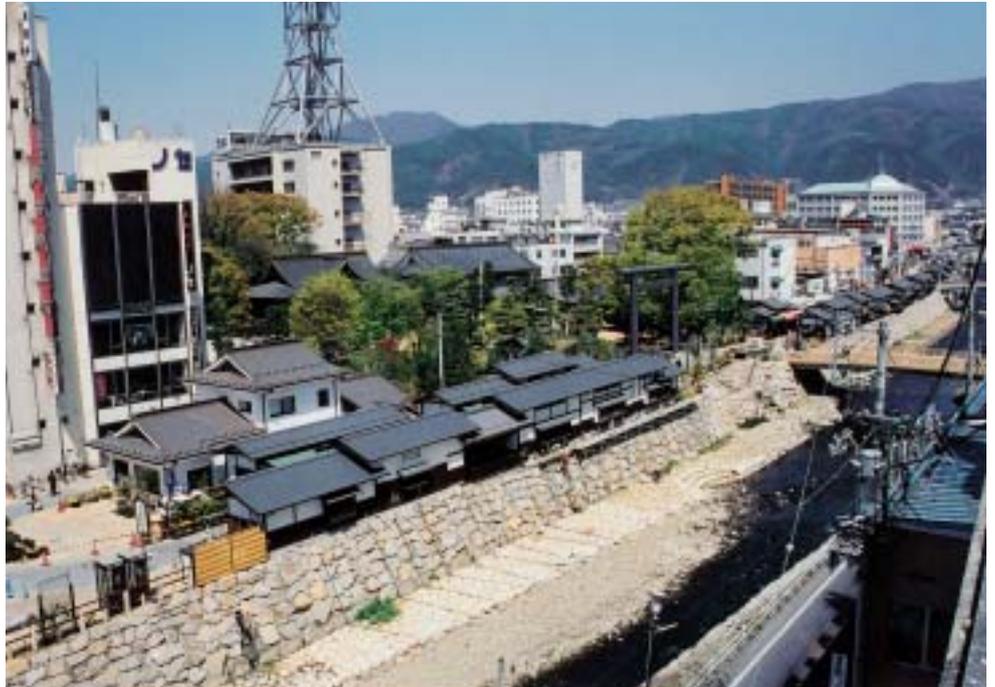
松本市の都市の原型は、武田信玄の時代に遡る。

縄手通りは、城下町の町人町と武家屋敷とを隔て、防衛機能を持たせた軍事的な施設として造られた、女鳥羽川には生まれ生まれたものである。その縄手通りの中心である四柱神社は、明治時代、松本城の外堀を埋め立てて建てられた神社であり、すべての願いがかなう「願いごとむすびの神」として、四人の神様が祭られ多くの市民に親しまれていることもあり、街づくりのキーワードを「緑」とした。

「河川事業と街づくり事業とが連携した面的な一体整備」をコンセプトに、街路空間整備では、外堀風護岸や武家屋敷長屋風の建物を再現し、広場整備では歴史的事実に基づいた「女鳥羽の滝」を再来させ、縄手通り中心部のシンボル性を高めるなど、歴史的建築物と一体となった面的な広がりを持つ歴史的な街づくりがなされた。

新しく生まれ変わった縄手通りは、地域の人々だけでなく、県内外からも多くの観光客が訪れ、大

道芸、バナナのたたき売りなどのイベントが開かれる時には、身動きできないくらいの盛況である。また、城下町らしい風情が買われ、ドラマの撮影などにも多く使われている。



縄手通りと女鳥羽川が一体的に整備され、歴史を感じさせる街なみとなっている



武家屋敷長屋風の建物



松本城の外堀を意識した護岸



DATA-8

- ① 長野県松本市大手
- ② JR中央東線松本駅より徒歩10分
- ③ ・松本城
- ④ 大道芸、バナナのたたき売りなど
- ⑤ 松本市役所建設課 TEL 0263-34-3000